

平成23年度における主な取り組み ~その3~

【教育研修】

◆ リーダーとして活躍できる人材の育成

- ・初期研修医105名、後期研修医144名、フェロー41名
- ・初期臨床研修のマッチングは市中病院中全国トップ
- ・医師臨床研修指導医養成講習会を開催し指導体制を強化
- ・初期研修カリキュラムに疫学・医学統計基礎講座を設置
- ・後期研修カリキュラムに研究体験のコースを設置
- ・若手医師を対象にした海外留学制度を整備
- ・こころの健康づくり対策事業思春期精神保健研修事業
- ・看護師の卒後臨床研修を実施



◆ モデル的研修・講習の実施

- ・エイズ拠点病院などの医師・看護師を対象とした研修会を実施
- ・全国の医師を対象に輸入感染症対応の講習会を開催
- ・ワクチンの教育振興の一環としてトラベラーズワクチン講習会を実施
- ・「糖尿病診療—最新の動向—」と題した医師・医療スタッフ向け研修会を開催（全国3か所延べ5回）
- ・精神科心理教育研修2回、摂食障害医療研修1回を実施

【災害等への対応】

◆ 公衆衛生上の重大な危害への対応

- ・センター病院全職員を対象に災害訓練を実施
- ・災害マニュアルを改定し各職場へ配付
- ・NBC災害への対応マニュアルを改定
- ・新感染症の発生に向けた訓練の実施
- ・東日本大震災への対応



宮城県東松島市に医療支援チームを継続的に派遣

在宅被災者に対するの全戸別訪問による健康支援調査の実施

石巻地域へ心のケアチームを派遣

東松島復興支援プロジェクトとして、東松島市と保健衛生活動における復興対策のための協定書を締結

派遣者総数250名

（医師109名、看護・助産師60名、薬剤師30名、事務等51名）

【情報発信】

◆ ネットワーク構築の推進

- ・HIVに関し、全国8ブロックのブロック拠点病院協議会を厚労省疾病対策課と合同で各ブロックで開催
- ・肝炎情報センターでは拠点病院間連絡協議会を2回、医療従事者向け研修会を4回開催
- ・児童精神科地域連携会議を6回開催

◆ 情報の収集・発信

- ・ホームページアクセス数 1,430万件（対前年度+131万件）
- ・HIV感染症に関して、信頼のおける情報を入手しやすいホームページに改訂
- ・輸入感染症（マラリア、デング熱、腸チフスなど）や一類感染症（ラッサ熱）に関する医療者向け情報を提供
- ・一般の海外旅行者向け情報（マラリア予防、下痢症予防）をホームページで情報提供

◆ 国への政策提言

- ・エイズ動向委員会、薬事審議会医薬品第一部会、次期国民健康作り運動プラン策定専門委員会などに出席し専門的な立場から提言

【国際協力】

◆ 国際貢献

- ・アジア、アフリカ等の開発途上国における保健システムの強化を図るため専門家を派遣 115件
- ・アジア、アフリカ等の開発途上国からの研修生の受け入れ 202名
- ・国際機関、国際協力機構（JICA）等の調査研究・評価事業 36件
- ・国際保健基礎講座を開催（国内人材育成）253名
- ・国際保健医療協力研修を開催 10名
- ・医学生や看護学生を対象に国際保健に関する講義の実施 6大学
- ・長崎大学と連携大学院に関する医療協力に関する合意書を締結
- ・ベトナム・バックマイ病院に引き続きラオス・パスツール研究所及びマダガスカル・保健省公衆衛生局と医療協力に関する合意書を締結
- ・WHO協力センターのHIV/AIDS部門の技術パートナーとして国際会議に出席しHIV母子感染予防対策に参画



平成23年度における主な取り組み ~その4~

【HIV・エイズ】

◆ HIV・エイズ

- ・ HIV・エイズ患者の診療実績 入院患者数 延べ 8,000名
外来患者数 延べ11,031名
- ・ その他外部からの診療等に関する相談件数 2,446件
- ・ 患者教育用小冊子（患者ノート）を配布 8,386冊
- ・ エイズ拠点病院などへの研修を実施
医師・看護師を対象とした研修を4回、専門薬剤師研修を2回、
歯科研修を4回、短期研修を1回
首都圏5カ所の都県病院に対する出張研修の実施
- ・ 医療従事者が自己研修ができるよう研修内容をE-learningの形で公開
- ・ ブロック拠点病院との連携支援
石川県立病院に対し医師を派遣し外来診療のサポート
名古屋医療センターと名古屋大学との合同会議に参加

【国立看護大学校】

◆ 看護に関する教育及び研究

- ・ 研究課程部に長期履修制度を5名が活用
- ・ 認定看護師教育課程等の開催
がん化学療法看護 15名
- ・ 短期研修の開催
10コース（対前年度+6コース）
482名参加
なお一部の研修は、地域医療における看護継続教育に貢献するため一般公開
- ・ オープンキャンパスの開催
看護学部 2回開催 652名参加
研究課程部 3回開催 24名参加
- ・ 公開講座の開催 2回開催 110名参加
- ・ 臨床看護研究推進センターにおいて、研究相談及び看護師が行う臨床看護研究の指導 19件
- ・ 研究の推進と研究成果を外部に周知し研究紀要を発行



【業務運営の効率化に向けた取り組みなど】

◆ 効率的な業務運営体制

- ・ 招へい型任期付職員、若手育成型任期付職員へ年俸制を導入
- ・ 研究者として高い知識を有する者など優秀な人材を公募により採用
公募による採用実績 29名（うち任期付研究員8名）
- ・ 監査室による内部監査の実施
- ・ H24.4からのDPC導入に向け、「DPC室」を設置し、DPC業務全般の内容精査などを行い、導入準備を行った。

◆ 効率化による収支改善

- ・ 6ナショナルセンターによる共同入札の実施
医薬品、検査試薬、医療材料
- ・ 経営改善についての職員研修の実施
- ・ 国府台病院との共同入札の実施
在宅医療機器賃貸借、レントゲンフィルム、精米
- ・ 棚卸しの見直し、業務内容の見直しによるコスト削減
- ・ 後発医薬品の利用促進のため後発医薬品切替候補品目を選定

◆ 電子化の推進による業務の効率化

- ・ 職員専用ホームページをリニューアルし機能の充実・利便性を向上
- ・ 外部からの不正アクセス防御のためのソフトを更新しセキュリティを向上

◆ 財務会計システム導入による月次決算の実施

- ・ 財務会計システムによる適正な会計処理の実施
- ・ 経営分析システムに電子カルテデータや物流データを連携をし、経営分析の精度向上を図った

◆ 法令遵守等内部統制の適切な構築

- ・ 内部統制体制の有効性に関する評価
- ・ 監事による業務監査・会計監査の実施
- ・ 外部監査人による会計監査の実施
- ・ 契約事務の競争性、公正性及び透明性の確保

NCGMの課題と展望、要望

✓社会的背景

高齢者を中心とした生活習慣病の背景を持った全身疾患を抱える患者層に対する総合的かつ高度先進的な医療や研究がますます重要。

✓NCGMの進化

変化する国民の健康上の課題に対して、NCGMは、その基本構造と様々な機能を十分に活かしつつ、機動的・効果的に進化し続けることにより、ミッション達成を目指すことが重要

Toward the Evolution ～進化を目指して～

NCGMのミッションの実現を目指した課題と展望を、

『①新たな体制整備、②基盤整備、③更なる努力』の3つの視点から
まとめた『重点アクション』を策定

※ これですべてとするものではなく、NCGMを取り巻く状況の変化などを踏まえ、臨機応変に対応していくもの。

要 望

1. 優秀な人材確保

一律の人件費削減を廃止し、研究開発型独法としての事業・性質に応じた適切な人材（人件費）の確保

2. 財政上の配慮

独法として効率的・自律的経営に取り組むことは当然であるが、一方で、運営費交付金の中期計画を大幅に上回る削減は、安定的・継続的な研究開発に支障を来すおそれがあるため、一定の財政上の配慮が必要。

2011-2014 Toward the Evolution～進化を目指して～

中期計画～Action Plan～

2010

2011

2012

2013

2014

重点 Actions

New built-in system

開発医療部設置

- i) 早期探索的臨床試験、 ii) バイオバンク
- iii) 知財開発、 iv) CPC

Infrastructure development

(センター病院)
特定機能病院、DPC導入

(国府台病院) 新病棟、肝
炎免疫研究センターの整備

外来棟等の整備

診療科評価

看護職員確保(宿舍整備、離職防止、キャリアパス等)

職員能力開発

Further efforts

経常収支率100%以上、病院の収支相償の実現

ガバナンス及びコンプライアンスの強化

厳正かつ適正な調達の実施

開発・研究

- ・研究所、糖尿病研究センター、肝炎・免疫研究センターにおける研究・開発の推進
- ・国際臨床研究センターにおける臨床研究の推進
- ・感染症、糖尿病・代謝性疾患、肝炎・免疫疾患等に係る戦略的、重点的研究・開発の推進

医療

- ・高度先駆的医療、標準化に資する医療の提供
- ・患者視点の良質かつ安全な医療の提供
- ・救急医療、精神科救急、海外渡航関連の医療の提供

人材育成

- ・リーダーとして活躍できる人材の育成
- ・HIV、新興・再興感染症、肝炎、糖尿病、精神疾患に関する研修・講習の実施

均てん化・情報発信

- ・HIV、感染症、肝炎、糖尿病、児童精神に関するネットワーク構築と情報収集・発信

政策提言

- ・HIV、糖尿病・代謝性疾患、肝炎に関する科学的見地からの専門的提言

医療政策の推進

- ・新感染症や災害をはじめとする重大な危害への対応
- ・国際医療協力、HIV・エイズ
- ・看護に関する教育・研究

業務運営の効率化等

- ・効率的な業務運営、電子化の推進
- ・法令遵守等内部統制の適切な構築
- ・財務基盤の強化に向けた予算、収支計画及び資金計画
- ・施設・設備整備に関する計画
- ・人事システムの最適化、人事に関する方針

ミッションの実現

開発医療の推進におけるビジョンと主な取り組み

▶エイズ・B型肝炎に係る創薬を実現

開発医療部に最適の人材を迎え、First in Human試験も視野に入れた早期探索的臨床試験体制の確立と活動を開始

▶バイオバンクの推進を目指して

開発医療部に2室設置と最適の人材を確保し、6ナショナルセンターが共同歩調を取りながら行うバイオバンク事業の本格的稼働を開始

